

会長のひびき



小川 二郎 会長

「魂の時代」

朝早くから「ソウルメイト」の歌が響く、遠くは北海道や鹿児島から、また筑波や愛媛から来たゲストが掃除、清掃のため集まってくる。人々は目に見える粗大エネルギーの領域から、より微細で肉眼では見えないエネルギーの領域へと世の中の進化を感じるようになったのではないかと、人類は、数千年の農業時代を経て、二百年続いた近代工業時代から情報文明時代を卒業しようとして、心の時代を迎えている。これはまさに粗大なものから、より微細なものへと徐々に深化していく発展過程と言えよう。

我が社も心の時代を「楽・美・愛・真」の四つの部分に分けて、おのこの分野で深化を図ってきましたが、そのような表面的なことでは、この大変化を乗り越えられないと感じてきました。これからは心の中心の部分、すなわち魂の部分に踏み込んでいく必要を感じております。

一昨年、「ソウルメイト」という歌をつくりました。交通事故で亡くなる人は、全国で年間五千人台まで下がり、それに引きかえて自殺者の数は増え続けて、昨年は三万三千人を超えました。表面に現れた数字には十倍の予備群がいるそうですから、

交通事故の可能性ある人は約五万人、自殺者の場合は三十三万人の自殺をしようとして果たせず失敗した方がおられる計算になります。Mランドを卒業された人の中から一人の自殺者も出さない、出したらいかなと切に思います。それは友だちになること、心からの魂の友だちになること、これを止めることができるのは魂以外にない。この歌はこうしてでき上がった。しかし魂は歌ではない。私たちの仕事を通じてその仕事の一つ、一つの末端に現われてくる誠意そのもの、それが魂であり、魂のこもったと人が感じるものです。

歌は願望です。人生とはおもしろいもので、「ない」ことばかり目を向けますと、「ない」が増えてきます。「ある」ことに目を向け始めると、「ある」ものが増えてきます。創造主は、その人が望んだとおりに人生をプレゼントしてくれるようです。真の豊かさとは、まず心からくるものです。

世の中もついに元素から分子、陽子、中性子、電子までに分解されてクウォーク、グラビトン（重力子）まで発見され最終段階まできて、人類はついに天地間のいかなるものも、微細な粒子によって組成されていることも認識し波動学として定着したようです。

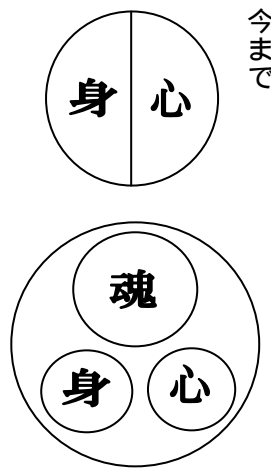
そのことが、心の問題とも深く関わってきて、今までのように「楽美愛真」近代文明に対比して言っていたような「物の時代」から「心の時代」に入ったというふうな心ではなく、心の中心というべき「魂の時代」が来たことを強く感じています。

今からは魂を中心に据えた経営に取り組んでいくしかありません。世の中の動きを魂を据えて、ゆっくり見渡してください。それができない人を胸抜けと昔から言います。

魂のこもった経営とは、まずMランドの社員全員が、現在を自覚するところから始まる。

世の中には、目に見えるものと目に見えないものがある。目に見えるものを「身」、目に見えないものを「心」とする。それを心身といつて、甲乙つけがたく、どちらも大事であると思ってきた。それが最近、ここ二、三年になってこの目に見えない方が、すなわち「身」より「心」の方がより大事であると思うようになった。我が社でもモーターアルト部などという部ができて、「ザルツブルグのコース」、「ヨガの森」、採点も減点方式から加点方式に変わりつつある。

環境とか保全への考え方も百八十度変わってきた。そのことをお互いに認めた上で図示すれば、こうなる。



魂が上にある。

そのうえで、全員で話し合っけて部長が自分で考えて提案し、健康と幸せな満足を提供して、自ら達成していく経営である。

親身になった対応をしています。そんな彼女が入社以来ずっと続けているのがゲストへのサンキューレターです。

元気に挨拶してくれる人や、受付でアナウンス体験をしてくれた人にはサンキューレターを書き、ありがとうの気持ちを伝えていきます。心がこもったレターは生徒に勇気を与え、幸せな気持ちになります。ゲストの中には検定前に渡辺さんとアームハグをして心を落ち着かせたり、卒業検定後に記念撮影をする人もたくさんいます。彼女の人気の裏には、ゲスト一人ひとりに対する丁寧な心配りがあるのです。

教習の不安や悩み事、何でもいいので相談がある人はまずMランドの受付に来てください。合宿生活を卒業まで楽しんでいただければ、愛を込めてサポートしていきます。

成長の人 NO.17



サービス部 渡辺 千佳さん

今回、紹介する成長の人は受付の渡辺千佳さんです。渡辺さんは一年ほど前に知り合いの紹介でMランドに入社し、それ以来、受付の顔として活躍し、彼女の笑顔がたくさんのゲストの元気の源になっています。

Mランドのサービスは「サービス」「愛」であり、ゲストの方々一人ひとりに愛情をもって接することをテーマに掲げています。受付には教習や合宿生活に悩む人、検定の手続きなど様々な用件のゲストが来ます。渡辺さんは、そんなゲストの方に暖かく、優しい笑顔で向かえ、時には良き相談相手となって悩みを解決し、

Mランドビストリー 14



笑顔いっぱい、トイレ掃除の現場です。

「重美塾・一美塾」

Mランドには多くのボランティアがあります。その中の「校内掃除に学ぶ会」、「トイレ掃除に学ぶ会」についてご紹介します。

このボランティアは、それぞれ一美塾・重美塾という名前でゲストの方々に親しまれています。この塾の名前は、この会を主宰するインストラクターの名前からつたものです。早朝にもかかわらず、参加者の数は年間五千名を超え、数多くのボランティアの中でも特に参加者の多いボランティアといえます。一回きり

ではなくMランド滞在中何度も参加される、いわゆるリピーターが多いことからわかるように、参加されたお客様をひきつけて離さない魅力があるようです。

早朝からの掃除は、清々しい気分になるだけでなく、様々な感動を生んでいるようで、特にトイレ掃除に学ぶ会では、素手で便器を掃除することから大きな反響を呼んでいます。みんなで掃除をすることによって生まれる喜び、自分たちの環境を自分たちの手でキレイにしていく気持ち良さ、掃除をすることによって初めて掃除をしてもらっている人の存在に気づき、その人への感謝の気持ちが生じます。

こうした感動が、これからの私たちの人生に役立ち、良いマナーを身につけ、人への思いやりの心を育てるきっかけになったと、多くの方から感想が寄せられています。

Mランドでの体験や感動、気づきを今後の人生の糧として感じていただけるなんて、こんなに嬉しいことはありません。

Ver.33 《ももたろう第9話》

